

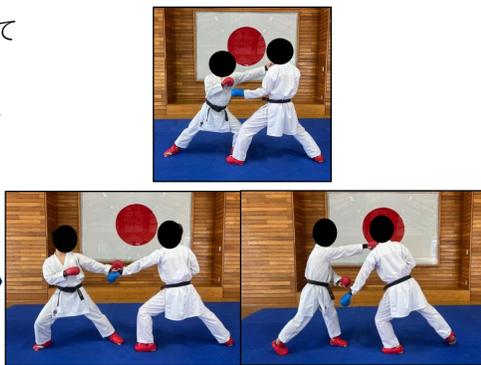
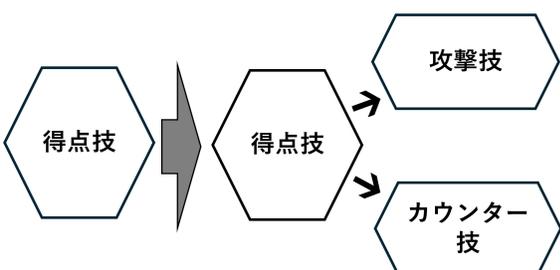
第51回全日本空手道選手権大会における得点技と過程動作の分析

荒川雅俊（国際武道大学大学院），笠原政志（国際武道大学）

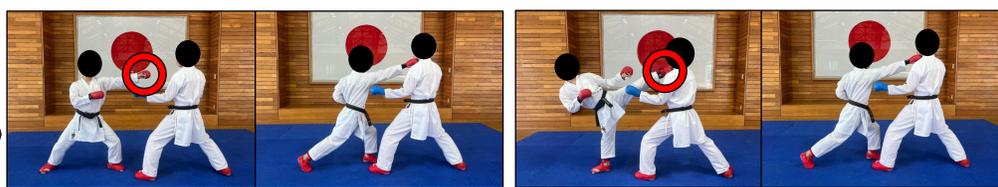
研究背景

空手道組手競技のパフォーマンス分析

従来の項目 大徳ら(2024)の研究によって



得点技の直前におこなわれる「過程動作」を区分した分析は見当たらない。



また、日本一を決める日本最高峰の大会である「全日本空手道選手権大会」においては、攻撃技・カウンター技、過程動作の特徴は明らかにされていない。

目的

第51回（2023年）全日本空手道選手権大会における攻撃技とカウンター技および過程動作の特徴について明らかにすることを目的とした。

方法

- 研究対象 内閣総理大臣杯 天皇杯 皇后杯 第51回全日本空手道選手権大会（2023年） 男子個人組手 全57試合
- 分析対象 男子個人組手全57試合→56試合（1試合が選手の棄権により実施がされなかったため）
- 技の種類 1) 刻み突き 2) 上段逆突き 3) 中段逆突き 4) 上段回し蹴り 5) 裏回し蹴り 6) 中段回し蹴り 7) 前蹴り 8) 横蹴り 9) 倒し
- 過程動作 「攻撃技」相手よりも先に技動作を開始する 「カウンター技」相手の技動作に対し、回避動作をおこないながら技動作をおこなう
- 定義 「構えから仕掛技の前に繰り出される動作であり、技に対して連続性を持つもの」
- 本研究において、「攻撃モーション」という用語を用いる 攻撃モーション 技として判定された動作の前に技動作があるもの 攻撃モーション「なし」 技として判定された動作の前に技動作がないもの

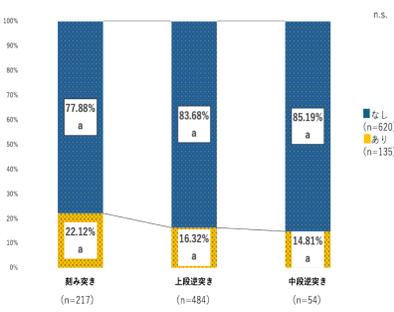
結果・考察

【攻撃技・カウンター技について】

攻撃技・カウンター技別の得点技，無得点技，仕掛技の数および得点率と有効率

技の種類	得点技		【有効率】		無得点技		仕掛技	
	n	%	n	%	n	%		
攻撃技	刻み突き	48 (18.82)	【22.12】	169 (16.13)	217 (16.65)			
	上段逆突き	79 (30.98)	【16.32】	405 (38.65)	484 (37.15)			
	中段逆突き	8 (3.14)	【14.81】	46 (4.39)	54 (4.14)			
	小計	135 (52.94)	【17.88】	620 (59.16)	755 (57.94)			
	上段回し蹴り	6 (2.35)	【16.22】	31 (2.96)	37 (2.84)			
	裏回し蹴り	2 (0.78)	【14.29】	12 (1.15)	14 (1.07)			
	中段回し蹴り	5 (1.96)	【6.67】	70 (6.68)	75 (5.76)			
	前蹴り	1 (0.39)	【9.09】	10 (0.95)	11 (0.84)			
	横蹴り	0 (0.00)	【0.00】	8 (0.76)	8 (0.61)			
	小計	14 (5.49)	【9.96】	131 (12.50)	145 (11.13)			
カウンター技	倒し技	3 (1.18)	【23.08】	10 (0.95)	13 (1.00)			
	刻み突き	15 (5.88)	【25.86】	43 (4.10)	58 (4.45)			
	上段逆突き	59 (23.14)	【26.34】	165 (15.74)	224 (17.19)			
	中段逆突き	16 (6.27)	【33.33】	32 (3.05)	48 (3.68)			
	小計	90 (35.29)	【27.27】	240 (22.90)	330 (25.33)			
	上段回し蹴り	0 (0.00)	【0.00】	15 (1.43)	15 (1.15)			
	裏回し蹴り	3 (1.18)	【21.43】	11 (1.05)	14 (1.07)			
	中段回し蹴り	6 (2.35)	【33.33】	12 (1.15)	18 (1.38)			
	前蹴り	0 (0.00)	【0.00】	1 (0.10)	1 (0.08)			
	横蹴り	0 (0.00)	【0.00】	2 (0.19)	2 (0.15)			
小計	9 (3.53)	【18.00】	41 (3.91)	50 (3.84)				
合計	255 (100.00)	-	1048 (100.00)	1303 (100.00)				
(攻撃技)	152 (59.61)	【16.65】	761 (72.61)	913 (70.07)				
(カウンター技)	103 (40.39)	【26.41】	287 (27.39)	390 (29.93)				

注1 n：得点技，無得点技，仕掛技の該当数を示す
注2 ()：得点率 (%) = (各技の得点技数 / 全ての得点技数) × 100
注3 【】：有効率 [%] = (各技の得点技数 / 各技の仕掛技数) × 100



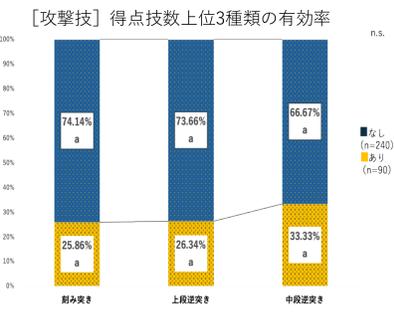
【攻撃技】および【カウンター技】において上段逆突きが最多得点回数
双方の得点率においては【攻撃技】の方が高い。

2020東京五輪大会と同様の結果（大徳ら,2024）である。

選手が得点を狙う技として【攻撃技】上段逆突きの回数が多い結果を示す。

有効率は攻撃技と比べてカウンター技が高いしかし、
【攻撃技】得点技数の上位3種類の有効率
【カウンター技】得点技数の上位3種類の有効率
において3条件間で有意な差は認められなかった。

有効率の高い特定の攻撃技およびカウンター技は「ない」ことが明らかになった。



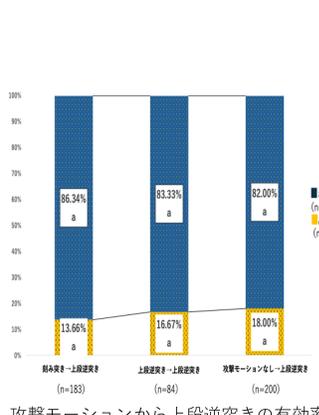
【カウンター技】得点技数上位3種類の有効率

【攻撃モーションについて】

攻撃モーションからの得点技，無得点技，仕掛技の数および得点率と有効率

技の種類	攻撃モーションの有無		得点技		無得点技		仕掛技	
	n	%	n	%	n	%		
攻撃技	刻み突き	25 (31.65)	【13.66】	158 (39.01)	183 (37.81)			
	上段逆突き	14 (17.72)	【16.67】	70 (17.28)	84 (17.36)			
	中段逆突き	2 (2.53)	【66.67】	1 (0.25)	3 (0.62)			
	小計	41 (51.90)	【15.19】	229 (56.54)	270 (55.79)			
	上段回し蹴り	1 (1.27)	【33.33】	2 (0.49)	3 (0.62)			
	裏回し蹴り	0 (0.00)	【0.00】	0 (0.00)	0 (0.00)			
	中段回し蹴り	0 (0.00)	【0.00】	8 (1.98)	8 (1.65)			
	前蹴り	1 (1.27)	【33.33】	2 (0.49)	3 (0.62)			
	横蹴り	0 (0.00)	【0.00】	0 (0.00)	0 (0.00)			
	小計	2 (2.53)	【14.29】	12 (2.96)	14 (2.89)			
合計	36 (45.57)	【18.00】	164 (40.49)	200 (41.32)				
カウンター技	刻み突き	0 (0.00)	【0.00】	2 (1.18)	2 (0.92)			
	上段逆突き	1 (2.08)	【20.00】	4 (2.37)	5 (2.30)			
	中段逆突き	3 (6.25)	【27.27】	8 (4.73)	11 (5.07)			
	小計	4 (8.33)	【22.22】	14 (8.28)	18 (8.29)			
	上段回し蹴り	2 (4.17)	【100.00】	0 (0.00)	2 (0.92)			
	裏回し蹴り	0 (0.00)	【0.00】	0 (0.00)	0 (0.00)			
	中段回し蹴り	1 (2.08)	【100.00】	0 (0.00)	1 (0.46)			
	前蹴り	0 (0.00)	【0.00】	2 (1.18)	2 (0.92)			
	横蹴り	0 (0.00)	【0.00】	0 (0.00)	0 (0.00)			
	小計	3 (6.25)	【60.00】	2 (1.18)	5 (2.30)			
合計	41 (85.42)	【21.13】	153 (90.53)	194 (89.40)				

注1 n：得点技，無得点技，仕掛技の該当数を示す
注2 ()：得点率 (%) = (各技の得点技数 / 全ての得点技数) × 100
注3 【】：有効率 [%] = (各技の得点技数 / 各技の仕掛技数) × 100



攻撃モーションから上段逆突きの有効率

全ての技で、【過程動作】攻撃モーションなしが最多得点技数（有効率の差異は認められない）

得点をするために過程動作をおこなっているが特出した値を示す動作はない。

得点技の前行動として技を繰り出すこと自体が重要なのではなく、
・技以外の動作
・相手を惑わせる
・間合いのコントロール
などの動作が得点に寄与していることが示唆された。

「かけひき」が重要であると考えられる。

結語

- 攻撃技・カウンター技について
攻撃技・カウンター技の特徴としては、攻撃技およびカウンター技においても上段逆突きが最も得点技が多かった。ただし、攻撃技・カウンター技の双方において、得点技数の上位3種類の技（刻み突き，上段逆突き，中段逆突き）の有効率において有意な差は認められなかった。
- 過程動作について
過程動作の特徴としては、「攻撃モーションなし」が最も得点技数が多かった。また、「攻撃モーションあり」に着目すると、「刻み突き→上段逆突き」の得点技数が最も多かった。ただし、得点技数の上位3種類の技（刻み突き→上段逆突き，上段逆突き→上段逆突き，攻撃モーションなし→上段逆突き）の有効率において有意な差は認められなかった。
以上が第51回全日本空手道選手権大会(2023年)で繰り出される技の攻撃技とカウンター技および過程動作の特徴であることが明らかとなった。本研究は空手道組手競技で繰り出される技とその過程動作に着目した重要な知見であり、今後の研究の基礎資料として貢献できるものと期待される。